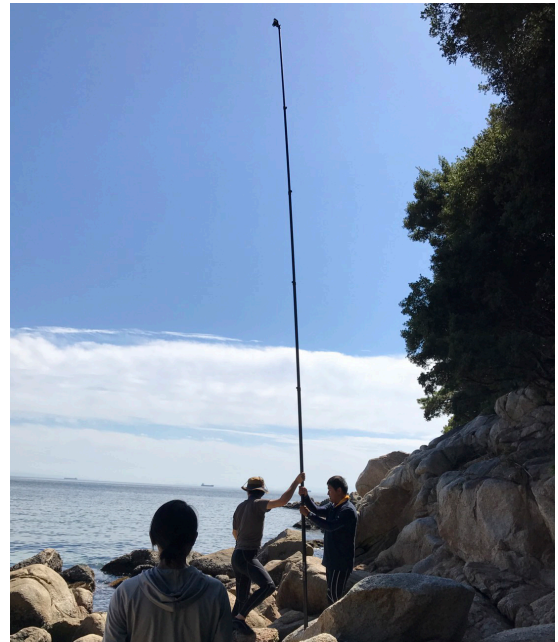
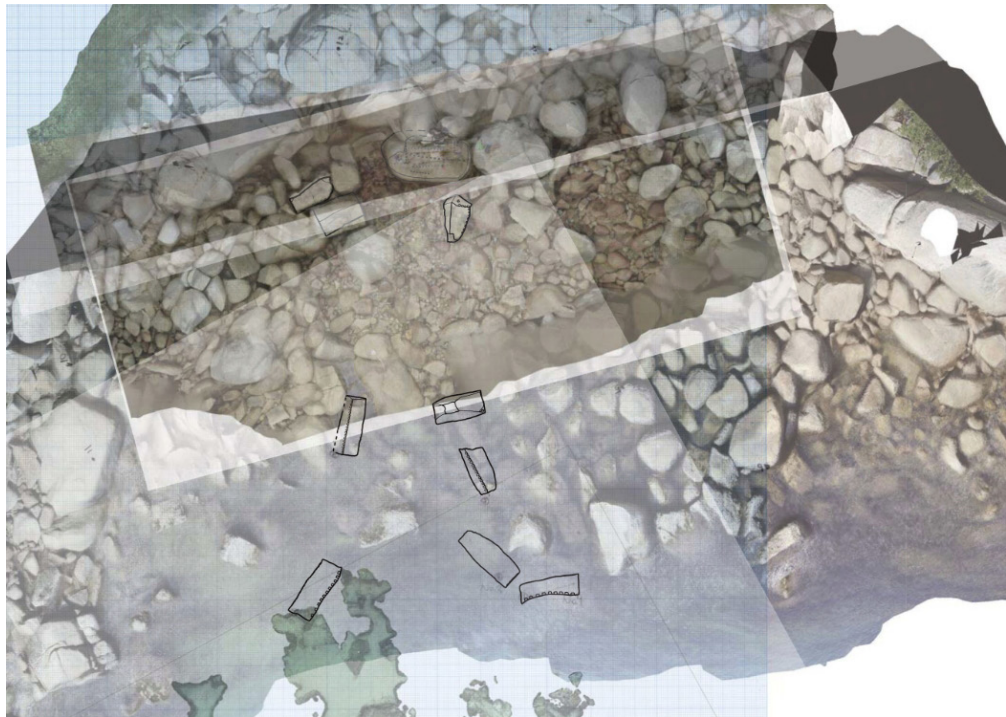


3. 写真計測

当該調査地の陸上部は、大量の石材がおり重なっている状態であった。採石当時から動いていない石材と後年の土砂崩れなどによる転石が混在していた。平板測量による石材全点を記録化は、困難な量であったため、写真計測を実施した。撮影用ロングロッド 4.5m および 7.5m を活用して高所から撮影した。ロングロッドの先には Wifi による遠隔操作可能なカメラを付け、地上ではタブレットでカメラシャッターを操作して撮影を行った。被写体となる石材群が 7 割以上オーバーラップするように撮影した。撮影は①陸地（満潮でも水没しない）、②陸地（干潮時に陸地化）、③波打ち際（干潮時の波打ち際）の 3 ブロックに分けた。②③は、潮の干満に合わせ撮影した。③については、常に波が押し寄せるため、画像の 7 割以上のオーバーラップ率を確保できず、接合処理の結果が芳しくなかった。撮影した画像は、Photoscan にてオルソ画像化したのち、石材輪郭をトレースした。なお、スケールは平板測量で記録した基準点をもとに整合させた。



ポールによる写真撮影



オルソ画像・平板測量図の合成